

議 事 録

会 議 名	令和6年第1回刈谷警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	令和6年2月20日（火） 午後3時から午後4時45分までの間 ----- 刈谷警察署講堂
出 席 者	1 委員 森 繁俊会長 青木 健治副会長 深谷 晴紀委員 近藤 純子委員 神谷 友理委員 奥野 櫻子委員 佐藤 久美子委員 野村 昇司委員 武田 直也委員 <p style="text-align: right;">以上9名（定数10名）</p> ----- 2 警察署員 清永署長 田邊生活安全課長 前田警備課長 <p style="text-align: right;">以上3名</p> ----- 3 有識者等 なし
諮 問 事 項 等	「警察に求める災害対策」
答 申 等 の 概 要	1 災害発生時における緊急輸送道路等の交通の確保 2 被災地に現れる泥棒等の二次被害防止対策 3 被災時に警察活動を維持するための資材、備蓄食糧等の確保
そ の 他	次回開催予定 令和6年5月ころ

会議の経過及び発言の要旨	
1	開会
	委員は任期中、非常勤の特別職地方公務員となるため、地位を利用した選挙運動が禁止されていることを説明した。
2	委嘱状の交付
	署長から新規委員に対して公安委員会からの委嘱状を交付した。
2	新委員、在任委員挨拶
3	会長及び副会長の選出
	委員の互選により森委員を会長に選出し、会長は青木委員を副会長に指名した。
4	会長、副会長挨拶
5	署長挨拶
6	警察署幹部紹介
7	令和6年交通速度取締方針の指針に関する説明（交通課長説明）
	委員からゾーン30について、なぜ時速30キロメートルにしてあるのか質問があり、時速30キロメートルを境に交通事故時の死亡率が大きく変わるため、全国的な取り組みとしてゾーン30を進めていることを説明した。
8	前回の答申に対する具体的施策の推進状況
	(1) 諮問事項
	自転車盗の現状と抑止対策の強化
	(2) 答申事項
	ア 広報活動による防犯意識、施錠意識の向上
	イ 仕掛学を活用した自転車盗対策を継続的に実施
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
ウ 各種ボランティア団体との連携の強化	
(3) 答申に基づいた施策の推進状況	
ア 答申事項アについて	
(ア) 被害の多い駐輪場を明記した「刈谷署緊急連絡」を作成し、パトネットあいちや刈谷市の公式アプリに配信、掲載した。	
交番だよりを回覧板で回覧、刈谷商工会議所の協力を得て同所の会報に鍵かけの注意喚起の記事を掲載した。	
中学校生徒指導懇談会で生徒に鍵かけの指導を依頼するなどして防犯意識、施錠意識の向上を図った。	
イ 答申事項イについて	
シルバー人材センターにし、仕掛学タグの取付けの継続を依頼した。	
ウ 答申事項ウについて	
地域安全パトロール隊長会議で、自転車盗の現状を説明し、パトロールを依頼した。	
刈谷市が委託している青色パトロール隊に駐輪場のパトロールを指示した。	
今後も、刈谷市教育委員会を通じ中高生に対し鍵かけが習慣となるよう働き掛けを続ける。	
委員から、巡回連絡時にも鍵かけを指導してはどうかと意見があった。	
6 諮問	
(1) 諮問事項	
警察に求める災害対策	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
(2) 諮問事項の設定理由（警備課長説明）	
ア 警察では、災害発生時に市民の生命等を守るため、平素から各種訓練、啓発活動を実施し、消防、行政等との情報交換や合同訓練に努めている。	
しかし、台風等の接近時に自治体が避難勧告や避難指示を発令しても実際の避難行動に結びつかなかった事例が散見される。	
イ 警察では市民に避難行動を取ってもらうため、各種キャンペーンや広報紙等を通じた啓発活動や刈谷市防災会議へ参画するなどの取組を行っている。	
災害発生時に自治体や警察等が避難勧告、避難指示の発令を様々な手段で広報したとしても、対象者に確実に伝達できる手段がない。	
ウ 避難場所、避難方法の確認、非常食の備蓄等について広報し、対策を促しても、対策をとるか否は個人の意識によるところが大きい。	
大規模災害発生直後は関心が高いが、時間経過とともに関心が薄れる傾向があることから、市民にどのような働き掛けをしていくべきか検討する必要がある。	
7 協議	
委員	・ 災害時には、道路網が乱れる。通行できる道路を早期に確保して欲しい。
委員	・ 被災地域の安否確認について、独居世帯の把握はできているのか。
警察	・ 市役所が把握しており、発災時には情報提供を受けることになっている。
警察でも巡回連絡の際に、世帯情報の提供依頼をしている。	
記録者	警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
委員	・ 巡回連絡を通じ避難について説明してほしい。様々な機関が避難の重要性を訴えることが重要である。
委員	・ 地区の自主防災会でも、障害者や独居老人と言った避難困難者を把握し始めた。
委員	・ 災害の予防よりも、発災後の事後対策に注力してもらいたい。
委員	・ 災害があると被災した住宅や店舗に泥棒が入る。被災者が泥棒の二次被害に遭わないようにパトロールしてほしい。
委員	・ 被災した際は、非常持出袋に貴重品を入れて避難するように指導しているが、避難所で、この非常持出袋が盗まれないための防犯対策を考える必要がある。
委員	・ 災害ゴミの不法投棄が問題となっていたので、不法投棄が無いようにパトロールしてほしい。
委員	・ 災害が本当に起きたときに動ける態勢をつくっておくことが必要である。
委員	・ 発災したときには、警察官も被災しているのではないか。被災した警察官が本当に警察署に参集し業務が行えるのか。リアルに想定し準備訓練することが必要だと思う。
委員	・ 自動車整備工場と協定を結んでいるとのことであったがどのような協定か。
警察	・ 災害時に警察車両が故障した際、優先して修理をしてもらう協定である。
委員	・ 東海豪雨の際に、橋が通行止めとなり職員が出勤できないことが
	記録者 警務係長

会議の経過及び発言の要旨			
あった。署員が参集できない場合の想定も必要だと感じる。			
8 答申			
(1) 災害発生時における緊急輸送道路等の交通の確保			
(2) 被災地に現れる泥棒等の二次被害防止対策			
(3) 被災時に警察活動を維持するための資材、備蓄食糧等の確保			
9 その他			
(1) 次回開催予定は令和6年5月下旬とする。			
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1129 1995 1134 2056">記録者</td> <td data-bbox="1134 1995 1428 2056">警務係長</td> </tr> </table>	記録者	警務係長
記録者	警務係長		